

## 創立 70 周年に寄せて



前田建設工業(株) 土木事業本部・機械部 主幹 篠原 慶二

### JCMA との出会い

日本建設機械施工協会の創立 70 周年、おめでとうございます。

時間のたつのは早いもので、私が当協会の機械部会トンネル機械技術委員会に参画してから 20 年になります。この間、参画当初は清水建設機械部長が委員長で、次の委員長は大成建設、次も大成建設と同業他社機械部長の委員会での手腕を目の当たりにしてそれぞれの委員長が機電職員の大御所に見えました。

当時のトンネル機械技術委員会の参画会社数は約 60 社で委員会活動に参加する人数もいつも 30 名以上の大所帯でした。

私は 1980 年に前田建設工業に入社し最初は岐阜県トンネル工事から建設マン人生が始まり山岳トンネル、シールドトンネル、ダム、TBM など当社としては看板土木工事に従事してきました。約 20 年間中部東海地域で機電職員として自分では大活躍していたつもりでした。そして東京本店・機械部に転勤になり 1998 年、機械部長から当協会のトンネル機械技術委員会に参画しもっと広い視野で建設機械を勉強しなさいと JCMA とのご縁が始まったわけです。

そこで当時のトンネル機械技術委員長に話を戻しますが、私は現場の機電職員＝いわゆる「機電屋」としてトンネル、シールド、ダム現場で施工機械の計画、維持管理、原価低減、工期短縮の仕事が自分の人生で

最も誇りのある事と自負していましたが…。

当協会は国土交通省の外郭機関、建設業部会、機械部会、標準部会、経費部会などの活動を体験して自分の天狗の鼻が折れました。委員会メンバーには錚々たるゼネコンと大手機械メーカーが連なっていました。年 1 回開催の賀詞交換会では用意してきた自分の名刺が 50 枚以上持参したはずなのに名刺ケースが空になったことを思い出します。

また委員会の現場見学会と大手機械メーカーの工場見学では当社以外のゼネコンのトンネル工事規模に圧倒され、シールドマシンは  $\phi 4\text{m}$  が最大だった自分の経験が他社では  $\phi 13\text{m}$ 、その他省力化、自動化設備、統合掘進管理、最新開発工法等々、目の前が異次元でした。

トンネル機械技術委員会の委員長が実施計画立案と見学現場の提供、最新トンネルマシン・システム技術の勉強会など東海地域で小さい機電屋だった私には“目から鱗”“棚から牡丹餅”状態で“猫に小判”状態の我が建設マン人生も改革できましたことは当協会のおかげと大変に感謝しております。

### トンネル機械技術委員長を拝命

平成 20 年度にトンネル機械技術委員会の委員長を拝命しました。当初は清水建設の委員長、次が大成建設の委員長、次も大成建設の委員長、“さてそろそろ私

が委員長か？いや鹿島建設がまだだ、大林組もまだだ”  
と思っていたところに念願の委員長拜命となりました。  
私は当社に入社してから機電屋は現場では“縁の下の  
力持ち的”な存在で十分！決して土木屋に技術では敵  
うものではないと冷静控えめな職員でした…が、本店  
に転勤になり当協会のトンネル機械技術委員に参画す  
るようになってから人生が変わりました（少なくとも  
良いほうに）“委員長やってみたい！もっと広く建設  
機械施工にかかわりたい！”と願っていましたので  
20年度の委員長就任は自分の機電屋人生再出発の良

いきっかけとなりました。

最近基礎工事機械技術委員会の委員長も経験し2  
つの委員会活動を楽しく参画させていただいています。

私は当協会が70年周年を迎え100周年までのあと  
30年。その時まで私はまだ生きているかと思えます？

当協会は会員の機械技術向上と所属会社の施工・開  
発技術の発展に大いに貢献していただけるので今後も  
協会全体が一丸となり建設施工の機械化が進化し続け  
ることを期待いたします。

JICMA